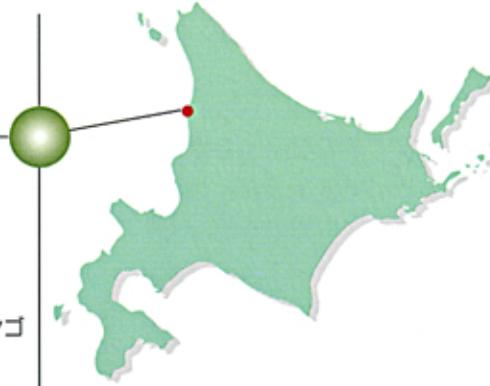


# 苦前町

苦前郡苦前町  
面積：454.52km<sup>2</sup>  
人口：4,573人(平成11年11月末現在)  
町の木：ナナカマド  
町の花：エゾエンゴサク  
町名の由来：アイヌ語の「トマオマナイ」(エゾエンゴサクの花の咲くところの意)から転訛  
ホームページ  
<http://www.voicenet.co.jp/~tomamae>



苦前町企画振興課  
**小澤 哲也**  
まちおこし係長

## 風力発電日本一のまち

苦前町は、北海道の北西部留萌支庁管内の中央部に位置し、総面積454.52km<sup>2</sup>、西は日本海、東は天塩連峰に接し、総面積の85%を森林資源が占めています。

日本有数の豊かな漁場「武藏堆」を擁する漁業は、四季を通してカレイ、タコ、イカ、ホタテ、エビ、サケ、マグロ、ウニなど約50種類の海産物が水揚げされています。特に近年は、ホタテ養殖などの栽培漁業へ転換が進んでおり、数の子、身欠きニシン、昆布、珍味加工品の人気も高くなっています。

農業の基幹作物は、水稻、野菜、牛乳で、水田の減反政策に対しては複合経営で販路を見いだそうと、メロン、ダイコン、カボチャ、ミニトマトなどの蔬菜栽培にも力を入れています。寒暖の差が激しいので、メロン、スイートコーンなどは糖度が増し、関西方面の市場で人気が高くなっています。

### シーフロントパーク苦前整備事業

日本海に沈む夕陽の美しさで知られる本町臨海地域、通称「夕陽ヶ丘地区」には、中国の海南島から取り寄せた白い砂が売り物の「とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ」があります。ここは、湾に囲まれた遠浅の海水浴場で、家族連れで安心して遊ぶことができます。また、ホワイトビーチに隣



とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ（上）とオートキャンプ場（右）

接する「とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場」は、日本海に面した小高い丘陵地に開設され、天売・焼尻両島とともに、天気の良い日には利尻富士が望めるなど、日本海の大パノラマが人々を感動させてくれます。

また、今年の5月に、シーフロントパーク苦前整備事業の拠点施設として、“憩い・にぎわい・遊ぶ”をキーワードとする新日本海地域交流センターとままえ温泉「ふわっと」がオープンしました。同交流センターは、日本海オロロンラインの中間地点に位置する本町の特性を生かし、地域の情報発信・提供の場となる施設づくりを目指しています。毎分139リットル、48.5℃の温泉を活用し、ファミリー向けの6、8人部屋を中心とした宿泊室（最大宿泊人数84人）、地元食材にこだわったレストラン、300人収容の多目的ホール、各種会議室からなり、周辺には前述のホワイトビーチやオートキャンプ場、第三種苦前漁港などマリンスポーツやアウトドアーライフを満喫できる施設が一体的に整備されています。

### 苦前町と風の関わり

明治の初期から、本町の浜はニシン漁で賑わいを見せ、内陸部にも北海道内外から入植者や移住者が開拓の鉄を入れてきました。なかでも青森方面からの季節労働者である「やん衆」のうちその



まま当地に根付いた人々は、望郷の念を浜から  
の強い風を利用した「津軽風」に託して大空いつ  
ぱいに羽ばたかせました。本場風づくりの技術は  
今日まで伝えられ、昭和49年には当地の気候風  
土を生かした冬場のイベントとして「町民風あげ  
大会」が産声をあげました。平成5年には第20  
回を記念して「北海道風あげ大会」へと衣替えを  
し、冬空を彩る一大イベントとして守り育てられ  
てきました。

このような風づくりの伝統や風あげ大会の実施  
を通して、地域住民は風との関わりを一層深める  
とともに、風を地域の財産として認識するようにな  
りました。行政サイドでは、当地の強い風を何とかして  
生産性のある“風力エネルギー”として生かせないかとい  
う検討が進められていましたが、この動きに呼応するよう、町内各集落の代表24人からなる地域づくり団体「苦前町まちおこし協議会」から風力発電事業の研究を積極的に推進することを内容とする具体的な提言が町に示され、風車建設は加速度的に推進されることとなりました。

### 町営風力発電施設「夕陽ヶ丘ウインドファーム～風来望」

町は、平成7年度から通産省の補助を受けて、  
夕陽ヶ丘地区において風況調査を実施し、年間平均  
風速7.5m/s(地上高40m)という風力  
発電には極めて有望な調査結果を得ました。引き  
続き平成9年度には実施設計を行い、10年度6  
00KW機1基、11年度600KW機1基を建設  
し、現在は2基1,200KWの風力発電機が稼  
働中であり、さらに12年度には1,000KW  
機1基が建設予定となっています。

この施設は、「夕陽ヶ丘ウインドファーム～風来  
望」と名付けられ、発生電力は風車周りのライト  
アップや同施設内の電源に活用され、余剰電力は  
電力会社に売電しています。今後は、地域住民や  
観光客に風力エネルギーの意義について理解を深  
めてもらうため、環境と調和したクリーンエネル  
ギーの重要性を肌で感じることのできるシステム  
づくりを計画していくと考えています。

### 日本一のウンドファームの出現

一方、上平地区の町営牧場内には、民間企業2社による総発電出力5万6百Kwに及ぶ集合型大規模風力発電施設(ウンドファーム)建設計画がスタートしました。

総発電出力2万KW(1,000KW風車×20基)の風力発電施設の建設を計画をしている総合商社トーメンは、同プロジェクトの事業主体となる現地法人「トーメンパワー苦前」を設立し、平成10年11月建設工事に着手し、11年11月から商業運転を始めました。

また、苦前町、電源開発、オリックス、カナモトの4者が出資し設立した「ドリームアップ苦前」が事業主体となっている総発電出力3万6百KWの計画は、平成12年12月からの商業運転を目指し建設工事を進めています。

この上平地区における民間企業2社による集合型風力発電施設が完成すると、その年間発生電力量は、一般世帯が年間消費する電力量に換算すると、約3万1千世帯に相当すると試算されており、単機出力、総発電出力ともに日本一となります。これまで、「苦前町」を紹介しても位置や町の特徴を理解してもらうのに、長い説明を要していましたが、これからは、「風の町」「風車の町」の一言で足りるようになりました。

風車の周りで牛たちが悠々と草をはむ光景は、雄大なスケールとともに、自然と技術が融合した新しいクリーン北海道の未来を指し示しているようです。



夕陽ヶ丘ウンドファーム～風来望

トーメンパワー苦前に於ける風力発電所「苦前グリーンヒルウンドパーク」

